

# ほんばこ



No. 73

日本教育会館 附設 教育図書館通信

復刊第73号 (通巻第89号)

2026年2月20日発行

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2

日本教育会館5F

教育図書館

Tel/Fax : 03 (3230) 4437

Mail : toshokan32304437@jec.or.jp

<https://www.jec.or.jp/tosho/>

## ● 目 次 ●

- ◆ 終わらないはなし 佐藤 貴之 2 ~ 3 p
- ◆ 図書紹介 『教科書の中の世界文学』消えた作品・残った作品25選  
『阪神・淡路大震災30年 いのちの危機を生き抜く』  
教育図書館 4 ~ 5 p
- ◆ 最近の受入図書 (2024年4月~2026年1月受入) 6 ~ 7 p
- ◆ 教育図書館のご案内 8 p

# 終わらないはなし

佐藤 貴之

神保町で仕事をするようになって、時々、雑誌を扱う古書店で83年ころの『an・an』を探している。表紙を思い出せるつもりだが、目当てのものは見つからない。

それは、「古着ってステキ」みたいな特集の号だった。古着の店がいろいろ掲載されている中に、広尾の店があった。

高校生のころ。古着に興味はなかったが、この店に行きたくなった。店構えだったのか、店の雰囲気だったのか覚えていないが、そこにあった写真を見て気になった。「広尾ってどんな街だろう？」とも思った。

2年生の私は広尾へ行った。雨降りだった。スマートフォンなどないので、住所をメモして、地図を持ってその店を探すことになる。日比谷線の広尾駅から地上に出て、明治屋を見ながらにぎやかな通りを歩くとその店はすぐに見つかった。ショーウィンドウはギンガムチェックで飾られていた。

何かが気になって、それに触れてみたくなる。何が気になったのか、自分でも分からない。いつもそうだ。

おとなになって、広尾へ行ったがその店は見つからない。この辺と見当をつけながら、記憶を辿りぶらぶら歩く。奥に行くと聖心に突き当たることを高校生の頃は知らなかった。あの時、大学生のお姉さんたちがたくさん歩いていたのか、記憶にない。雨でもあったし…

小さな古着店。さまざまな店が入れ替わっているのを見つからなくて当然だが、なんか寂しくて、思い出を確かめたくて、ずっと『an・an』を探している。

本が好きで、時間があれば書店にいる。飲み会の後でも書店が開いていれば立ち寄る。ふらふらしながら入る書店は心地いい。

「読んでから見るか、見てから読むか」、これは角川書店が本と映画で一世を風靡した80年ころのキャッチコピーだ。多感な私は「見てから読む」派だった。

大河ドラマ『花神』(77年)を見て歴史は面白いと思った。村田蔵六に興味を持ち、高校生になって司馬遼太郎の原作を読んだ。村田を感じたくて、高校の修学旅行のとき、京都の班別研修を抜け出して大阪にある村田が学んだ適塾に行ってみた。念願だった出身地の鑄銭司村(すぜんじむら)(山口市)には一昨年ようやく行けた。

『関ヶ原』(81年 TBS)を見て、石田三成が好きになった。読んで、三成の佐和山城(彦根市)にも行ったし、豊臣ゆかりの場所をさまざま歩いた。京都東山、阿弥陀ヶ峰の山頂に太閤殿下の墓所豊国廟がある。夏の炎天下激しく汗をかきながら583段の石段も登った。

そして、司馬遼太郎は私の愛読書のひとつとなった。おかげで、私とその時代にいたら、幕末は長州、戦国は豊家に加わるだろう。

『不毛地帯』(79年 TBS)も面白かった。山崎豊子の原作は文庫で500ページ超の5巻なので手を出せずにいたが、昨年、思い切って踏み込んだ。

『阿修羅のごとく』『あ・うん』は向田邦子。向田は少女時代の思い出をエッセイに書いているが、そこに登場する「昭和の父親」が、私にはフランキー堺に見える。『あ・うん』(80年 NHK)で主人公の父を演じた堺の印象が強いためだ。

私は『思い出トランプ』が好きだ。13の小説

を収めた向田の短編集である。これがNHKで放送されたのは84年。その中でも『だらだら坂』。坂の上のマンションに女を囲っている会社社長の庄司。庄司はいつも坂の下でタクシーを降り、煙草屋で煙草を買って、それからゆっくりと坂を登る。庄司を演じたのは杉浦直樹だ。

ドラマで使われたその坂に行ってみたかった。庄司の悦に入った心持ちは最後に寂しきになり、ひとり坂を降りて行く場面でこの話は終わるが、ドラマの中のこの坂で私も庄司を感じたかった。庄司と一緒に坂を登ってみたかったし、煙草屋もマンションも、その幻影を感じたかった。

録画していた場面を何度も見て手がかりを探して、町の本や地図を見て、やっと「青木坂」に見当をつけた。坂は南麻布にあった。坂の右側の木々はフランス大使館の垣根だった。ドラマが放送されてから20年以上経ち、あたりの建物も道路もこごっぱりしていたが、庄司がタクシーを降りた坂の下に私は立てた。庄司と一緒に、ふたりでゆっくり坂を登った。

その坂は、何度も来ている広尾の町のすぐ隣にあって、その先の港区白金（旧麻布区芝白金三光町）は『あ・うん』の主人公水田家の場所であった。

去年、ふと植込みの脇に腰掛けたら、そこに「ツワブキ」と記された札があった。つわぶきの花の時期はいつなのか。そのときは葉っぱばかりだったが、これがつわぶきかと思った。

「つわ子って、珍しいお名前ねえ。うちの主人、すぐ言いましたでしょ。つわぶきからとったなって。」

これも短編『花の名前』中の言葉だ。『花の名前』は、夫松男の「終わったはなしだよ」という言葉と、深夜に隣家のテレビから聞こえてくる「君が代」で終わるのだが、終始漂う緊張感とともに、この台詞とつわぶきの花への興味がずっと私の中にあっただ。花はなかったが、思

いがけないつわぶきとの出会いがうれしかった。

高校から大学生のころ、私の部屋に薬師丸ひろ子さんがいた。ひろ子さんは、帰宅する私をいつも待っていてくれた。角川書店の宣伝用の看板で等身大の薬師丸ひろ子さんである。

母の実家が書店だった。店先に立って微笑んでいたひろこさんを、使わなくなったというので私が連れて帰った。

そんな環境で育ち、今はとても本が好きなのに、小学生の私は本を読まなかった。手に取るのは雑誌だけ。パラパラと写真ばかり眺めていたことが、振り返ると惜しい。母の実家に行くと、帰りに「この本、持っていったいい？」といえば持ち帰れたし、商品ながら数日借りることもできた。借りた本は、あくまでも商品。そんなこともあり、本の扱いは常に丁寧でない気がすまない。実家にある古い本や雑誌も、今店頭に出せるくらい皺や傷がない。

「もっと丁寧に捲ってください。」

先日書店で、乱暴に雑誌を捲る隣の客に声をかけた。立ち読みにもマナーがあると思う。

「そういう捲り方をすると、こんな風に本に傷がつくんです。」

放物線状の傷。雑誌の持ち方によっては紙にこの傷ができる。

嫌な顔をされた。私はそれにめげず、

「それは商品ですよ。」と畳みかけた。

「お前は店員か！」捨て台詞を吐いて、その客は出ていった。

そうそう、それをいうなら「店員」より「店主」に近いかもしれない私は思った。

（日本教職員組合 政策局次長）

※本の内容は原文を生かして紹介しました。

## 図書紹介

### 『教科書の中の世界文学』

消えた作品・残った作品 25 選



秋草俊一郎, 戸塚学編 三省堂 2024 年

本書は戦後、中学、高校の検定国語教科書に採録された世界文学の中から選ばれた作品集です。編者 2 名が実際に手に取って目を通した作品は 200 を超え、**内容のおもしろさを第一**に選ばれました。『最後の授業』(ドーデ)、『信号』(ガルシン)、『夏の読書』(マラマッド)、『美人ごっこ』(ヤーコブレフ)などが掲載されています。

「敗戦後、日本の教育は占領軍の監督のもと、一から出直さなければなりませんでした。国語教育もその例にもれず、徹底的な見直しがせまられました。」 p9

1951 年「学習指導要領(試案)改訂版」には、国語の「読むこと」の項目に、「高等学校になると、現代文学の主なものはもちろん、翻訳された世界文学が含まれ、代表的な古典にも及ばなければならない。」とあります。

「古文や漢文だけでなく、翻訳された世界の文学に親しむこと。それは日本が国粹的な傾向から、国際秩序に復帰していくうえで必須のプロセスでもありました。」 p10

1950 年代から 60 年代にかけて、高校の国語教科書の文学教材の約 4 分の 1 を世界文学が占めるほどの状態にあったそうです。70 年代に学

習指導要領が改訂されると、国語科目の再編成がおこなわれ、教材も「精選」され、「残す理由」が見つかりにくかった世界文学教材は大きく数を減らし、現状では、高校の国語教科書では文学教材のわずか 3% 程度にとどまっているそうです。政治的な必要性や時代の空気もあったかもしれませんが。戦後、戦争の記憶が生々しいころ、直接的に取り上げられることがはばかれた背景や、その後の日本文学など教材の変化など、あらためて戦後 80 年を振り返ることができます。本書は、教科書という枠の中での「世界文学」の風景を見せてくれます。

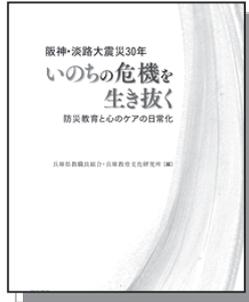
現在も教科書に採用されている「新しい古典」からは、フランツ・カフカの『掟の門』が選ばれており、解説には以下のように書かれています。

「カフカの『掟の門』は、1990 年に初めて教育出版『最新現代文』で教材化されますが、(中略)・・・『掟の門』採録の一つのポイントは、この小説のわからなさにあると考えられます。たとえば、数研出版『文学国語』の指導書は、『掟の門』を読んで、『明確な答えを得られない』ことは『生徒が社会に対して感じている不安と同じ』であり、生徒はだからこそ、自分なりの答えを考えられるとしています。」 p36

構成としては、現在も教科書に採用されている「新しい古典」から年代ごとに 90 年代、80 年代・・・そして終戦直後の 50 年代までさかのぼっていく形になっています。

年代ごとの「解説」では、その教材が採用されていた背景について紹介しています。国語教科書と外国文学をめぐるさまざまな話題を提供している「Column」など、読みやすい編集になっています。「読書案内」としても、教科書と時代を考えるうえでも興味深く、手に取っていただければと思います。

## 『阪神・淡路大震災 30 年 いのちの危機を生き抜く』



— 防災教育と心のケアの日常化—  
兵庫県教職員組合・兵庫教育文化研究所編  
諏訪清二 ほか 編著 明石書店 2025.6

1995年1月17日午前5時46分  
阪神・淡路大震災から30年が経ちました。

本書は、震災を知らない世代へ1.17を風化させず、教訓を継承するため、兵庫県教職員組合と兵庫教育文化研究所が中心となり、発行されました。いのちを守る行動、「心のケア」、避難児童の受け入れ、防災教育のあり方について、これまでの経験を整理して、今後への提議をおこなっています。

兵庫県教職員組合と兵庫教育文化研究所は、地震のあった1995年11月に『阪神・淡路大震災と学校—教育現場からの発信—』を発行しています。

その後、兵庫県教職員組合は、貴重な体験を、記録に残すだけでなく、震災から学んだ「生きる力」を育む教育を推進してきました。

「過去から学び、未来へつなぐこと」

「被災地と未災地をつなぐこと」

30年が過ぎ、震災時、中心となっていた教職員も次々と退職を迎え、風化しつつある懸念もあるといいます。

予測困難な時代を生き抜くために、「次世代へ語り継いでいくこと」、「1.17を忘れない、風

化させないこと」を念頭に、30年の節目に、新たな課題にとりくんだ内容となっています。

あのとき・・・

「鷹取中学校避難所から始まった

防災教育との関わり 中溝茂雄」(一部抜粋)

「当時、私は中学校の理科の教員で、・・・8時過ぎには学校に到着した。・・・東の空には火災の煙に覆われ、長田区の鷹取商店街方面からは火の手が上がっているのが見えた。・・・停電のため電動シャッターが下りた状態であったが、無理やりこじあけて入職員室に入った。避難住民をすぐに3階にある体育館へ誘導した。お昼過ぎには、焼け出された鷹取商店街にある高橋病院のお医者さんたちが入院患者さんとともに避難してきた。北校舎1階の4教室と保健室を使用してもらった。須磨区役所の要請があり、北校舎の4階が遺体安置所となり、50体の遺体も運び込まれてきた。」(・・・中略)

学校が避難所になるということがどういうことか、被災体験を語り継ぐ意味を本書は教えてくれます。子どもの時の体験を語る人がいて、語る機会をつくれれば・・・。あの時10歳だった子が40歳となり、阪神・淡路大震災の被災地では、自身の経験を語り始めているそうです。

「災害からいのちを守るためには、3つの要素を学習し、そこで得た知識を行動に移すだけでよい。」「1つめはハザードの理解、2つめは災害への備え、3つめは災害発生時の対応」と『主体的に』判断できる人を育てることを防災教育学会会長の諏訪清二さんは提言しています。(p.66～75)

災害後の「心のケア」「心の健康」を取り戻すことの大切さについてもふれ、新たな防災教育の蓄積として有意義です。教職員に限らず、読んでいただきたい1冊です。

(教育図書館)

## 最近の受入図書 ☆印は寄贈本

(2024年4月～2026年1月受入)

### 【日教組刊行物】

『日本の教育』第74集 日本教職員組合編著  
(株)アドバンテージサーバー 2025.6

『健康権確立に向けて 2024年』第63回日教組養護教員部研究集会記録 日本教職員組合養護教員部編 (株)アドバンテージサーバー 2025.3

『わたしたちの青年部運動 第50集』  
日教組青年部常任委員会 (株)アドバンテージサーバー 2025.3

学習シリーズ28『守ろう！子どもの個人情報～学校健診PHRと次世代医療基盤法を考える』  
日本教職員組合養護教員部編 (株)アドバンテージサーバー 2025.3

『憲法・平和・教育を守る母と女性教職員の会全国集会2024 報告集』日本教職員組合編 (株)アドバンテージサーバー 2025.2

### 【教育研究全国集会】

『日教組第74次教育研究全国集会報告書』  
第1分科会～第24分科：36冊

『日教組第75次教育研究全国集会報告書』  
第1分科会～第24分科：36冊

### 【教育総研刊行物】

『教職から離れる若者たち』菊地栄治編著 紅林信幸/腰越滋/山田浩之著 一般財団法人教育文化総合研究所 2024年

『「ゆたかな学び」のための社会づくり研究委員会 報告書』一般財団法人教育文化総合研究所 2025.3

『「ゆたかな学び」としての学校づくり研究委員会(第二期)報告書』一般財団法人教育文化総合研究所 2025.3

『標準時数の変遷に関する調査』東京学芸大学大森直樹研究室 2024.5

『中学の標準時数の変遷に関する調査』東京学芸大学大森直樹研究室 2024.11

### 【教組刊行物】

☆『都高教新聞縮刷版 25』2020年4月11日～2025年3月15日(第1897号～第1970号)

東京都高等学校教職員組合編

☆『「日教組香川」合本 Vol.11』2023.4～2025.3 (No.351～No.374) 日教組香川教職員組合

### 【平和資料】

『米軍が記録した日本空襲：新装版』平塚 絳編著 草思社 2020.1

『写真集 沖縄戦』大田昌秀監修 那覇出版社 1990.3

『戦争と漫画：焦土の記憶』山田英生編 筑摩書房 2025.8

『核兵器と戦争のない世界をめざす高校生たち』高校生平和ゼミナール全国連絡センター編 大月書店 2024.8

『高校生は学び行動する』市田真理, 沖村民雄, 吉田守編 遊行社 2025.8

### 【防災・減災】

☆『阪神・淡路大震災 30年いのちの危機を生き抜く』兵庫県教職員組合・兵庫教育文化研究所編 諏訪清二ほか編著 明石書店 2025.6

☆『能登半島地震から一年半 ～つなぐ思い・歩む未来～ ことじだより特別号』石川県退職女性教職員の会 2025.12.1

### 【和雑誌】

『内外教育』時事通信社編

NO.7131-7151 (2024.1-3) 【合本】

NO.7152-7180 (2024.4-7) 【合本】

NO.7181-7208 (2024.8-12) 【合本】

NO. 7209-7233 (2025. 1-3) 【合本】

NO. 7234-7261 (2025. 4-7) 【合本】

『教育委員会月報』文部科学省編 第一法規  
No.793-798 (2015. 10-2016. 3) 【合本】  
～No.853-858 (2020. 10-2021. 3) 【合本】  
2021年3月：月刊誌の発行中止

### 【教育・経済・社会】

『希望の教育学』パウロ・フレイレ著 太郎次郎社エディタス 2001. 11

『なぜ今、労働組合なのか』藤崎麻里著 朝日新聞出版 2025. 1

『発達障害大全』黒坂真由子著 日経BP 2023. 12

『包括的性教育をはじめの前に読む本』池田賢市著 新泉社 2024. 7

『日本史教科書検定三十五年』照沼康孝著 吉川弘文館 2025. 4

『「休むと迷惑」という呪縛』保坂亨著 平凡社 2025. 10

『でっちあげ』福田ますみ著 新潮社 2019. 11

☆『教育と公共』（野間教育研究所紀要第65集）  
「教育と公共」研究部会 野間教育研究所  
2025. 2

☆『保育の中での遊びとリスク』（野間教育研究所紀要第67集）幼児教育研究部会 野間教育研究所 2025. 12

☆『学びを育む高等教育実践』和井田祐司著 三恵社 2024. 3

☆『在日朝鮮人・外国人と生きる私を求めて』木川恭著 木川恭遺稿集出版委員会編 藤原書店 2024. 11

☆『現場教師の連帯のための日本学校教育論』西尾理著 三恵社 2025. 2

☆『女性教員・女性校長が語るジェンダー平等』佐藤智美著 晃洋書房 2025. 2

☆『旭丘中学校事件からの伝言』山本裕子・旭丘中学校事件の教育を語る会 文理閣 2022. 5

『マンガでわかる!学校に行かない子どもが見ている世界』西野博之著 KADOKAWA 2024. 6

『康ソンセンニムと学ぶ朝鮮と日本の2000年』康成銀著 スペース伽耶 2022. 6

☆『チーム担任制』共育の杜企画ほか さくら社 2025. 7

### 【家庭・絵本・芸術・文学一般】

『へいわってどんなこと?』浜田桂子著 (日・中・韓平和絵本) 童心社 2011

『へいわとせんそう』たにかわしゅんたろうぶん Noritake え ブロンズ新社 2019. 3

『へいわってすてきだね』安里有生詩 長谷川義史画 ブロンズ新社 2014. 6

☆『青瓜不動』宮部みゆき著 KADOKAWA 2025. 6

☆『その復讐、お預かりします』原田ひ香著 双葉社 2024. 2

☆『汝、星のごとく』凧良ゆう著 講談社 2025. 7

## 教育図書館について

教育図書館は、1966年10月1日、(財)日本教育会館の附設図書館として設立されました。

教育関係図書を中心に、日本教職員組合結成以来の刊行物、全国教研集会報告書などのほか、教育文化総合研究所(略称教育総研、前身は国民教育研究所)の研究成果、教育学一般、教育実践記録などを重点的に収集、閲覧に供しています。

## 教育図書館のご案内

### 《利用方法》

開館時間 午前10時～午後4時30分  
(12:45-13:30 一時閉館)

開館日 (火)・(水)・(木)

✉ toshokan32304437@jec.or.jp

貸出 利用者カードが必要です。

発行の際は、身分証明書をご持参ください。

(貸出冊数5冊 期間3週間)

レファレンス・サービス

当館所蔵の図書・雑誌、教育に関するお問合せはメールにてお願いいたします。

コピー：白黒1枚10円／カラー30円

### 《特別コーナー》

- 平和資料コーナー  
平和教育教材、平和教育実践記録、戦争体験記・平和運動、核兵器廃絶（原発関連を含む）など
- 日教組刊行物コーナー  
日教組教育新聞・教育評論・月刊JTUなど
- 教育総研刊行物コーナー  
年報、理論講座、ブックレット、季刊「教育と文化」、各研究委員会報告書など
- 日教組教研全国集会報告書・県教研のまとめ
- 都道府県・高教組史誌、同機関誌
- 文部科学省統計調査報告書・刊行物  
学校基本調査、国際比較、教育費、学習指導要領、指導書など
- 海老原治善文庫：元東京学芸大学教授、教育総研初代所長海老原治善氏からの寄贈書
- 鈴木喜代春文庫：児童文学者、元教育相談室相談員鈴木喜代春氏の著作本、寄贈書
- 人権・防災・減災コーナー  
人権関係、東日本大震災など災害の記録

### 《蔵書について》

- 教育関係図書を中心に和書、和雑誌・新聞・洋書、洋雑誌などを収蔵しています。
- 教育図書館のホームページの蔵書検索の画面から検索できます。  
(<https://www.jec.or.jp/tosho>)

### 《アクセス》

神保町駅 A1出口より徒歩3分  
九段下駅 6番出口より徒歩7分  
竹橋駅 1b出口より徒歩5分  
水道橋駅西口 徒歩12分（JR総武線）

**アクセス抜群**

**神保町駅から3分**

**802名収容の大ホール**



10～300名  
まで使える  
会議室(18室)

1階画廊  
もご利用できます

一般財団法人日本教育会館  
TEL 03-3230-2831  
<https://www.jec.or.jp/>  
受付時間 9:00～17:00